北海道体育学研究　58：29－36，2023

研究ノート

第９回国民体育大会記録映画の映像および言語音声分析

近　藤　雄　大

Video and language audio analysis of the 9th National Sports Festival documentary film

Yuta Kondo

Abstract

The purpose of this study is to identify the characteristics of the documentary films produced at the 9th National Sports Festival by unearthing and analyzing the films' contents. This study is also an attempt to present the video materials as research materials for studying the development of sports in Hokkaido in the early postwar period. Specifically, the analysis method employed was divided into video analysis (frame, shot, scene, and sequence classification) and language audio analysis (KH Coder software analysis), and the characteristics of documentary films are discussed.

The study results are as follows.

First, the documentary films were characterized by descriptions of children, who are the future leaders of Hokkaido the watching of sports; the richness of nature that is characteristic of Hokkaido; and Hokkaido's athletes and female athletes.

Second, after the documentary films were converted into data through video analysis and language audio analysis, this allowed for comparisons with document materials and other documentary films.

Finally, we identified a research issue regarding Hokkaido's Relationship with the Ainu People, a subject area which has not been focused on in previous research on the 9th National Sports Festival.

key words: 11th International Sports Film Competition，KH Coder，Hokkaido

１．はじめに

国民体育大会（以下，「国体」と略す）は，敗戦直後の1946年に日本体育協会（以下，「日体協」と略す）の主催により，荒廃で娯楽を失った国民にスポーツの喜びを与え，日本国内に広くスポーツを普及させる目的で，戦禍を免れた京都府を中心とする京阪神地域で開催されたスポーツ・イベントである（権，2006）．国体は長い歴史の中で，全国規模の大会としてスポーツ人口の増加，体育・スポーツ施設の整備・拡充，選手強化等，日本の体育・スポーツの普及・振興に大きく貢献してきた．

戦後初期の北海道においてもスポーツの普及・振興を大きく進めさせた契機であると考えられるのは，北海道で1954年に開催された第９回国民体育大会（以下，「第９回国体」と略す）である．

これまで，国体を対象とした歴史研究では，多くの成果が蓄積されている（原田，1996a，1996b；入江，1991；草深，1985，1979，1987；小林，1977，1978；二上ほか，1989，1991；外間，1983；関，1997；内海，1993）．国体は，全国規模で地域ごとに約80年近く継続されてきたと考えると，スポーツ政策や日本のスポーツ振興と大きく関わりを持ち，戦後日本のスポーツ政策や

北海道大学大学院教育学院
〒060-0811 北海道札幌市北区北11条西７丁目

Graduate School of Education, Hokkaido University
Kita11 Nishi7 Kita-ku Sapporo Hokkaido 060-0811

著者連絡先　近藤　雄大
yuyuta.114230@gmail.com

地域スポーツの成長を反映してきているといえるだろう．そのため，国体の全体像を政策や制度等の多角的視点から捉える研究が中心的に蓄積されているものの，地域を対象とした個別研究も多く存在している．しかしながら，観行（2002a，2002b），権（2006）は，これまで蓄積されてきた国体を対象とした研究は，スポーツ・イベントとしての国体についての一側面しか扱っておらず，国体の開催が開催地域住民に与えた影響，国体と開催地域の関係を明らかにする必要があると指摘している．そこで，観行（2002a，2002b）は，第５回国体が開催地域行政・財界により国家及び地域の文化装置として位置づけられたことや『中部日本新聞』が第５回国体に関する社説を用いて，地域住民に対して，自発的同意を導き出すためのイデオロギー操作の役割を果たしたことを明らかにしている．また，権（2006）は，国体の歴史的変遷を「民族再建・戦後復興と国体」，「国体の形成と確立期」，「国体に対する反発と抵抗期」，「国体の衰退期・虚構期」の４期に分け，国体の歴史的特徴，その時代の機能，メカニズムについて整理している．この２人の研究成果を引き継ぎ，崎田（2008）は，第６回国体において製作された記録映画である『平和の鐘』を発掘し，その内容の分析を踏まえて，文献資料では把握することができなかった国体開催時の広島県の詳細な様子や広島県民にとっての国体の捉え方を映像資料で補完している．崎田の研究から，映像資料を用いることで，観行や権が指摘する国体の開催が開催地域住民に与えた影響，国体と開催地域の関係の解明に接近することができる可能性を窺い知ることができる．また，歴史研究において，資料の発掘と整理は重要な研究課題であり，論文の内容として発掘した資料の説明が求められていることから，これまで多く使用されてこなかった国体の映像資料を発掘，分析し，研究資料として提示することは国体研究を今後さらに進めていく上で，重要な研究課題である．

他方で，第９回国体に関する先行研究としては，坂本（1982）の研究が挙げられる．坂本は，『北海道新聞』を資料とし，「コートシップ」[注1)]という作業概念を用いて，第９回国体を象徴天皇のパフォーマンスとして捉え，政治的な天皇の戦後地方巡幸と非政治的なスポーツ大会という二重の目的と意義が混在するスポーツイベントであったことを示している．ただし，この論文では，『北海道新聞』が中心資料であり，第９回国体開催時に作成された映像資料は扱われていない．そのため，未見の資料である記録映画を発掘することは，戦後初期の北海道におけるスポーツの発展を考究する際の課題の一つとなると考える．

そこで，本研究は，第９回国体（北海道，1954年）において製作された記録映画を発掘・内容を分析し，第９回国体記録映画の特徴を明らかにすることを目的とする．その際，映像資料である記録映画は，第９回国体北海道組織委員会という大会の主催者の意図が加えられて編集されていることを念頭におく必要がある．

ところで，体育・スポーツ史研究において映像資料を使用した研究は，代表的なものに崎田の一連の研究（2008，2015，2020，2022）や桝本（2000）の研究があるものの映像資料を歴史資料として分析する方法論に関する知見が十分に確立しているとは言い難い[注2)]．そのため，本研究では，先行研究の成果を引き継ぎ，特に崎田（2020）の研究を参考に，次の映像分析の方法を採用した．

まず，映像分析については，記録映画をフレーム単位で確認し，ショット単位で内容を記述した上でシーンに分類する．その後，分類したシーン内容をもとにシークエンスに整理し，映像の特徴を明らかにする．本研究では，映像における１画面の単位をフレーム（１秒＝30フレーム），連続するフレームから構成される映像をショット，まとまりのあるショットから構成される映像をシーン，関連のあるシーンから構成される映像をシークエンスとする[注3)]．

次に，言語音声分析については，言語音声をすべて文字に起こし，計量テキスト分析[注4)]による結果を参考に，言語音声の特徴を明らかにする．ここでの言語音声は，ナレーターによるナレーションと各種目の実況，道知事の開会宣言，天皇の挨拶，選手宣誓である．テキストデータをフリーソフトウェアである「KH Coder」を使用して，計量的にテキストを分析する．この分析から「抽出語リスト」（抽出される出現頻度），「対応分析図」（特徴的な語），「共起ネットワーク図」（同時に用いられることが多い語）を作成し，結果を参考にしつつ，特徴的な語を選択し，前後の文脈を考察する．

最後に，映像分析と言語音声分析の結果を統合して，第９回国体記録映画の特徴を叙述する．

２．第９回国体の開催経緯と記録映画の概要

『第９回国体報告書』に基づけば，北海道の第９回国体誘致は，北海道体育協会，北海道議会，北海道教育委員会が1951年第６回国体開催における日体協支部長会議で，第７回国体開催に立候補したのが最初である（第九回国民体育大会北海道組織委員会編，1955，pp.155-156）．毎回多数の選手や役員を国体に参加させ，継続的に国体招致を希望し立候補したことで，1952年１月の日体協会議において第９回国体を北海道で開催する内定方針が示された（第九回国民体育大会北海道組織委員会編，1955，pp.155-156）．第９回国体開催の内定を受けた北海道体育協会，北海道議会，北海道教育委員会は，財源の確保，競技施設の整備，宿泊施設整備，国体開催主旨の普及徹底，選手の輸送問題の改善を進めた．特に，選手の輸送問題について，北海道体育協会は，日体協国内委員会に青函間車線輸送計画を提示し，漸次的に選手団員数の減員を実施した（第九回国民体育大会北海道組織委員会編，1955，pp.155-156）．最終的な選手団員数は全体で選手12,000人，役員3,000人と決定した（第九回国民体育大会北海道組織委員会編，1955，pp.155-156）．

そして，第９回国体の夏季大会は，1954年７月23日から６日間，ヨット競技と山岳競技の２競技が，秋季大会は，1954年８月22日から５日間，北海道７市42会場で25競技種目が実施された．大会参加者数は夏季大会が497名，秋季大会が12,607名，合計13,104名であった（第九回国民体育大会北海道組織委員会編，1955，pp.33-34）．

第９回国体記録映画[注5)]は，1954年に第９回国体北海道組織委員会の監修のもと，読売映画社（現在の株式会社イカロス）によって製作された．規格（白黒）及び数量は，「35ミリ版，２本，３巻仕上，3,000呎」，「16ミリ版，７本（プリント）」と『第９回国体報告書』に示されている（第九回国民体育大会北海道組織委員会編，1955, p.119）．また，「製作費200万円」（第九回国民体育大会北海道組織委員会編，1955，p.119）とあるが，この記録映画の製作経緯は記されておらず，監督，撮影，音楽，ナレーターは不明である[注6)]．

第９回国体記録映画の特筆すべき点は，1955年２月イタリアのコルティーナで開催されたイタリアオリンピック委員会主催の第11回国際スポーツ映画コンクールにおいて，一等に入賞し銀賞大メダルを獲得していることである．入賞の一つの要因として，読売映画社の社長である田口は，「オリンピック精神に通ずる日本の国民体育大会の意義（単に技を競うだけでなくあらゆる階層の人が参加すること）を画面に映した意図が評価された」と語っている（読売新聞，1955a，1955c）．

３．記録映画の映像分析の結果と考察

記録映画[注7)]の映像をショット単位でカウントした結果，390ショットとなり，平均値は約148フレーム（４秒28フレーム），最小値は17フレーム，最大値は710フレーム（23秒20フレーム）であった．そして，内容によって映像を分類した結果，30シーン９シークエンスを設定した．表１は，シークエンス内のシーン内容と合計ショット，合計フレーム，合計シーンのそれぞれの数と割合（%）を示したものである．また，表２は，シーンの詳細を含む各シーンのショットとフレームのそれぞれの数と割合（%）を示したものである．映像全体に占めるそれぞれの割合（%）が高い場合は，シーン内またはシークエンス内の時間が長いことを示している．

まず，映像分析の結果，シークエンス７（表１）の「秋季大会（2）」は，全体に占めるシーンの割合が46.7%，

表１　記録映画の映像分析結果①

	シークエンス	シーン内容	ショット		フレーム		シーン	
			数	%	数	%	数	%
1	カウントリーダー	カウントリーダー	1	0.3	710	1.2	1	3.3
2	タイトル	タイトル	1	0.3	306	0.5	1	3.3
3	オープニング	オープニング	7	1.8	817	1.4	1	3.3
4	夏季大会	夏季大会	22	5.6	2866	5.0	3	10.0
		ヨット競技						
		登山競技						
5	聖炎旗リレー	聖炎旗リレー	46	11.8	7599	13.2	3	10.0
		札幌市の様子						
		両陛下の動向						
6	秋季大会(1)	秋季大会	47	12.1	8577	14.9	3	10.0
		両陛下の入場						
		開会式						
7	秋季大会(2)	レスリング競技	244	62.6	32308	56.1	14	46.7
		卓球競技						
		軟式テニス競技						
		ボクシング競技						
		サッカー競技						
		バレーボール競技						
		柔道競技						
		ハンドボール競技						
		相撲競技						
		バスケットボール競技						
		陸上ホッケー競技						
		漕艇競技						
		陸上競技						
		自転車競技						
8	秋季大会(3)	模範演技（体操競技）	21	5.4	3799	6.6	3	10.0
		模範演技（馬術競技）						
		閉会式						
9	エンディング	エンディング	1	0.3	591	1.0	1	3.3
		合計	390	100.0	57573	100.0	30	100.0

ショットの割合が62.6％，フレームの割合が56.1％となっており，全９シークエンスの中でそれぞれ最も大きな割合を占めていることに着目する．また，シーン25（表２）の「陸上競技」は，全体に占めるショットの割合が23.8％，フレームの割合が22.1％となっており，全30シーンの中でそれぞれ最も大きな割合を占めている．陸上競技は，第９回国体のメイン会場である円山競技場で実施されており，メイン会場での競技を中心に編集することで大会の盛況や成功により充実したスポーツ環境を映し出す意図があったと考えられる．

次に，シーン７（表２）の「聖炎旗リレー」は，全体に占めるショット割合が9.0％，フレームの割合が9.3％となっており，全30シーンの中でそれぞれ３番目に大きな割合を占めていることに着目する．第９回国体における聖炎旗リレーは，第８回大会のメイン会場のあった愛媛県の県庁前から北海道札幌円山競技場までの全距離4,127.671㎞，全区間1,389区，参加人数32,525名をかけて実施された（第九回国民体育大会北海道組織委員会編，1955，p.37）．また，聖炎旗リレーは本州を通過後，北海道の競技会場となる札幌，函館，苫小牧，岩見沢，美唄，旭川，小樽の７市全てを回っており，北海道の広大な土地を利用した今までの国体にない大規模な聖炎旗リレーであったため，「聖炎旗リレー」の占める割合が大きくなっていると考えられる．競技会場となる地域全て

表２　記録映画の映像分析結果②

	シーン内容	シーン詳細	ショット		フレーム	
			数	%	数	%
1	カウントリーダー		1	0.3	710	1.2
2	タイトル		1	0.3	306	0.5
3	オープニング	・陸上競技のシルエットと監修・製作表示（６） ・聖炎旗（１）	7	1.8	817	1.4
4	夏季大会	・小樽市の街並みと「夏季大会」の表示	1	0.3	154	0.3
5	ヨット競技	・小樽市祝津のヨットハーバーでのヨット競技の様子	8	2.1	1139	2.0
6	登山競技	・大雪山の風景と高山植物等の自然（３） ・登山競技の様子（10）	13	3.3	1573	2.7
7	聖炎旗リレー	・昨年の開催地四国松山市の愛媛県庁前から聖炎旗リレースタート（７） ・函館→道立大沼公園→昭和新山（12） ・白老とアイヌ民族→黄金道路（４） ・帯広→狩勝峠→旭川→美唄（７） ・聖炎旗リレー札幌市内に到着（５）	35	9.0	5356	9.3
8	札幌市の様子	・国体色に染まる札幌市と選手団の様子	8	2.1	1222	2.1
9	両陛下の動向	・札幌市に到着した天皇皇后両陛下と迎える札幌市民	3	0.8	1021	1.8
10	秋季大会	・札幌円山競技場と「秋季大会」の表示	1	0.3	449	0.8
11	両陛下の入場	・会場に到着した天皇皇后両陛下と会場の様子	8	2.1	936	1.6
12	開会式	・ファンファーレと選手団入場（12） ・聖火点火と聖炎旗掲揚（８） ・開会宣言と選手宣誓（７） ・天皇陛下のコメント（９） ・マスゲーム（２）	38	9.7	7192	12.5
13	レスリング競技	・旭川市自衛隊特設リンクでのレスリング競技の様子	11	2.8	1754	3.0
14	卓球競技	・旭川市営体育館での卓球競技の様子	16	4.1	1155	2.0
15	軟式テニス競技	・旭川市営テニスコートでの軟式テニス競技の様子	9	2.3	1157	2.0
16	ボクシング競技	・美唄市営体育館でのボクシング競技の様子	11	2.8	1112	1.9
17	サッカー競技	・岩見沢市東高校グラウンドでのサッカー競技の様子	7	1.8	1236	2.1
18	バレーボール競技	・小樽市入船公園バレーコートでのバレーボール競技の様子	13	3.3	1760	3.1
19	柔道競技	・苫小牧市若草小学校体育館での柔道競技の様子	9	2.3	1044	1.8
20	ハンドボール競技	・函館市東高校グラウンドでのハンドボール競技の様子	9	2.3	1078	1.9
21	相撲競技	・札幌市中島相撲場での相撲競技の様子	11	2.8	1331	2.3
22	バスケットボール競技	・北海道立中島スポーツセンターでのバスケットボール競技の様子	14	3.6	1772	3.1
23	陸上ホッケー競技	・北海道大学ホッケー競技場での陸上ホッケー競技の様子	9	2.3	1088	1.9
24	漕艇競技	・札幌市茨戸での漕艇競技の様子	7	1.8	1216	2.1
25	陸上競技	・札幌市円山競技場での陸上競技の様子 トラック競技（54）フィールド競技（39）	93	23.8	12708	22.1
26	自転車競技	・札幌千歳間での自転車競技の様子	25	6.4	3897	6.8
27	模範演技（体操競技）	・円山競技場での一般男女、高校男女の優勝チームの模範演技の様子	6	1.5	1432	2.5
28	模範演技（馬術競技）	・馬術競技選手の模範馬術大障害の様子	4	1.0	340	0.6
29	閉会式	・天皇杯皇后杯授与（７） ・聖火台と聖炎旗（４）	11	2.8	2027	3.5
29	エンディング	・「終」の表示	1	0.3	591	1.0
		合計	390	100.0	57573	100.0

表註：シーン詳細中の丸括弧内は小分類のショット数を示す．シーン内容による分類を行ったため,表の順番は記録映画の内容の展開に必ずしも沿っていない．

を通過していることを考えると，北海道民の第９回国体開催に対する認識を深めた聖炎旗リレーの華やかさを映し出す意図があったと考えられる．

また，観客を映したショットに着目すると，観客のみを映したショットが42（10.7％）あった．これらの観客のみを映したショットは，競技のショットから観客のショット，観客のショットから競技のショットという流れで編集されている．各競技が盛況であることを映し出す意図があったと考えられ，各競技の盛り上がりを見ると，北海道民のスポーツへの関心の高さを窺い知ることができる．また，子どもたちが喜んでスポーツ観戦している姿を映し出すことで，未来の担い手である子どもたちのスポーツ基盤を確立したことを描く意図があった可能性がある．

最後に，北海道の自然を映し出すショットが73（18.7％）あることに着目すると，これらのショットは，自然のみのショット，競技や聖炎旗リレーの後ろに映る自然のショット，自然から競技や聖炎旗リレーにパン[注8)]するショットである．また，自然のみのショットの場合，主にエスタブリッシングショット[注9)]が採用されており，北海道の自然を印象的に映し出す意図が見られる．これらの映像技法により自然を印象的に映し出すことで，未開拓な北海道の自然とその自然を開拓してスポーツ大会を開催したことを表現していると推察される．また，第９回国体開催によって北海道におけるスポーツそのものの普及と同時に，スポーツを用いた北海道の地域開発が進められていたという様子も窺い知ることができる．

４．記録映画の言語音声分析の結果と考察

文字化したすべての言語音声データを「KH Coder」に読み込ませ，データの単純集計をした結果，分析対象ファイルに含まれているすべての語の延べ数である「総抽出語数」は2,990語，総抽出語からどのような文章にでも現れる助詞や助動詞などを除き，「KH Coder」での分析に使用する語を絞った「総抽出語数（使用）」は1,441語であった．また，何種類の語が含まれているかを示す「異なり語数」は916語，KH Coderでの分析に使用する「異なり語数（使用）」は720語であった．

次に，抽出語リストを作成した．その結果669語からなる頻出降順の抽出語リストが得られた．このリストで示された出現回数３回以上の109語を頻出語と定義した．また，出現回数２回の語数は112語，１回の語数448語であった．この抽出語リストを表３に示す．

さらに，特徴的な語を確認するため対応分析図を作成した．対応分析図は特徴のない語の場合，原点（0.0）付近に集まり，特徴がある語の場合，原点付近から離れる．この対応分析図を図１に示す．

最後に，抽出語リストにある語と出現パターンの似通った語の程度が強い語を線で結んだ共起ネットワーク図を作成した．共起ネットワーク図は共起が強い語の場合，濃い線で結ばれる．この共起ネットワーク図を図２に示す．

抽出語リスト（表３），対応分析の結果（図１），共起ネットワークの結果（図２）を参考にし，特徴的な言葉を選択する．そして選択した言葉の前後の文脈を考察する．

まず，表３，図１，図２を参考にし，抽出語リストの中で１番目と２番目に多い言葉である「選手（42）」と「大会（36）」（括弧内は出現回数を表している．以下同様）という言葉の文脈を考察する．「選手」「大会」は，記録映画の中で多く使われる言葉であり，言語音声の中では，「選手」と「大会」という言葉が注目されていたことがわかる．また，「大会」という言葉を含む文脈を見ると，「躍進する北海道を背景に全国の若人が参集して若き力と意気を競う道民430万待望のスポーツの祭典第９回国民体育大会の日はついにきました」とあるように，北海道民が待ち望んでいたスポーツ・イベントが開催されることが表現されている．

次に，北海道出身の参加者といった視点から表３，図１，図２を参考にし，「地元（7）」と「ゴールイン（4）」という言葉の文脈を考察する．「40歳以上100m決勝．３コースは北海道の奥村選手．地元の声援を受けて奥村ぐんぐんでました」，「大沢ゴールイン，俄然地元の強みを発揮して２位を約400m離して堂々優勝しました」とあるように，地元の選手や地元のチームが優勝したことを明確に示しており，この記録映画の開催地である北海道の選手が好成績を残したことを表現していることがわかる．北海道の選手が好成績を残せた要因として，地元開催という移動や気候の違いがない地の利があったため，選手の調子を整えることができたことが挙げられる．

最後に，女子選手という視点から，表３，図１，図２を参考にし，「決勝（26）」と「女子

表３　記録映画の言語音声分析による抽出語リスト

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
選手	42	熱戦	6	歓迎	4	一行	3	相撲	3
大会	36	福岡	6	結局	4	一戦	3	走者	3
決勝	26	力	6	後半	4	円山	3	続ける	3
北海道	25	会場	5	歳	4	沿道	3	体育館	3
優勝	24	開催	5	試合	4	夏季	3	対	3
行う	18	旗	5	室矢	4	開始	3	男女	3
東京	17	記録	5	種目	4	各地	3	知事	3
競技	16	皇后	5	終了	4	技	3	追う	3
一般	12	国民	5	出る	4	宮崎	3	天皇	3
大阪	12	最後	5	出場	4	挙行	3	展開	3
札幌	11	市内	5	出発	4	競う	3	田中	3
入る	9	聖火	5	入場	4	行程	3	投げる	3
見事	8	青年	5	陛下	4	香川	3	堂々	3
女子	8	先頭	5	北海	4	今井	3	美唄	3
開会	7	全国	5	キロ	3	差し掛かる	3	表彰	3
月	7	体育	5	スポーツ	3	埼玉	3	秒	3
秋季	7	跳ぶ	5	タイム	3	市営	3	猛烈	3
聖炎旗	7	到着	5	フォーム	3	自転車	3		
代表	7	ゴールイン	4	メイン	3	若人	3		
地元	7	スタート	4	ヨット	3	受ける	3		
鈴木	7	トップ	4	レース	3	順	3		
京都	6	リレー	4	愛知	3	小樽	3		
高校	6	下す	4	愛媛	3	静岡	3		

(8)」という言葉の文脈を考察する．「槍投げ女子一般決勝．アジア大会に優勝した茨城栗原選手が40m16を投げて優勝しました」，「女子一般走り幅跳び決勝．これには京都の南部，群馬の高橋などアジア大会の選手を揃えて接戦が予想されましたが結局５m51で福岡の福山選手が優勝しました」とあり，「決勝」を含む26の文脈の内，「女子」が８の文脈に含まれている．女子の陸上競技は1954年第２回アジア大会出場選手（読売新聞，1955b）を中心に注目が集まっていたことがわかる．

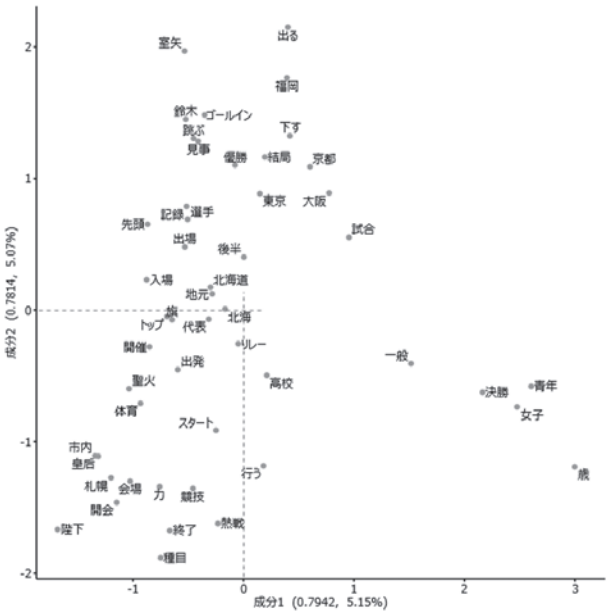

図１　記録映画の言語音声分析による対応分析図

５．まとめにかえて

本研究は，第９回国体において製作された記録映画を発掘・内容を分析し，第９回国体記録映画の特徴を明らかにすることを目的とした．具体的には，記録映画を崎田（2020）の分析手法を参考に，映像分析と言語音声分析に分け，分析するとともに記録映画の特徴を考察し，研究資料として提示することを試みた．今後，文書資料や他の記録映画との比較の可能性に配慮したため，フレーム，ショット，シーン，シークエンスの分類や「KH Coder」を用いたテキスト分析の方法を採用した．

第９回国体記録映画の映像分析と言語音声分析を通じて，記録映画の特徴は以下のように示唆できる．

まず，記録映画の映像に第９回国体のメインイベントであった陸上競技や聖炎旗リレーの割合を高くし，スポーツの祭典としての華やかさを映し出すだけなく，観戦する子どもの姿が映し出されていたことである．未来を担う子どもたちがスポーツ観戦をしている様子を映し出すことで，国体の目的でもある北海道のスポーツ基盤の形成が表現されていたと考えられる．

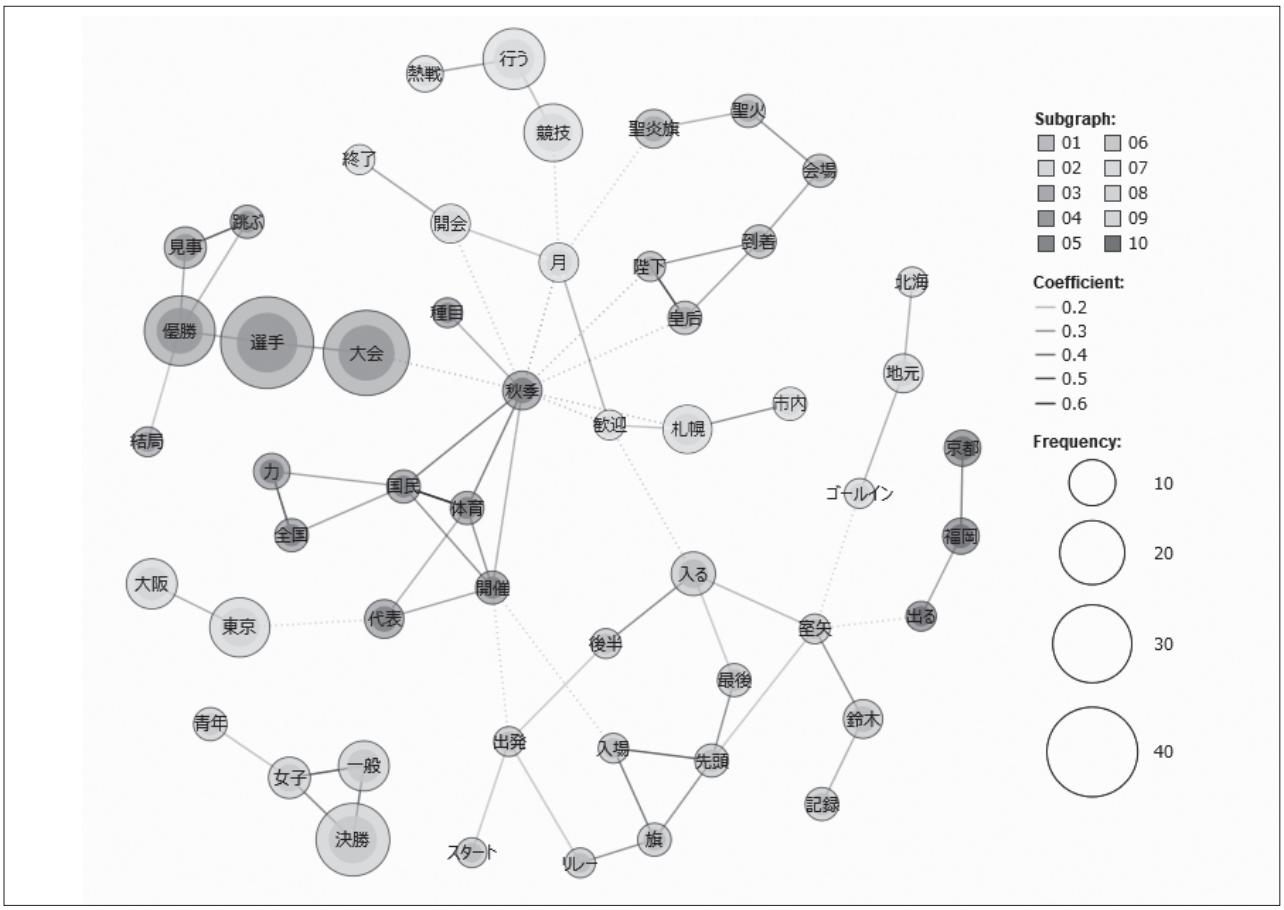

図２　記録映画の言語音声分析による共起ネットワーク図

次に，北海道の自然が印象的に映し出されていたことである．北海道は元々自然が豊かなため，映像に映り込むことは不自然ではない．しかしながら，印象的に見せる映像技法を用いることで，北海道の特色でもある自然の豊かさが表現されていたと推察される．

最後に，記録映画で描かれている中心が選手であったことである．映像上では，特に北海道の選手と女子選手に注目が集められていたことが把握できる．読売映画社の社長である田口の言葉を参考にすれば，選手を中心に記録映画を構成したことが，記録映画が国際的な舞台で賞を獲得することができた一つの要因であると考える．

以下に，本研究の成果と今後の課題を示し，まとめにかえる．

まず，本研究で対象とした第９回国体記録映画は，既存の研究では分析や考察がなされていなかったという点で，未見の資料だといえる．また，先行研究で使用されている第６回国体記録映画や他の国体記録映画が発掘された際の好個な比較資料となりえよう．

次に，本研究では撮影方法について検討しなかったが，撮影方法により変化する印象効果や視覚効果等の細かな演出から制作者の意図を捉えることができる．より映像の制作側の意図を捉えるためには，カメラワーク，カメラアングル，ワーキングディスタンスを想定する必要がある．また，収録されなかった映像について，映像時間の制約から記録映画には採用されなかった映像部分がある．第９回国体記録映画では，準備段階の様子，国歌，競技予選の様子などが採用されていない．採用されなかった映像部分には何が映っていたのか検討が必要である．これらを踏まえて記録映画の分析を試みる必要があると考える．また，本研究の記録映画の特徴は，映像データと文字化した言語音声を分析した結果からの一つの特徴である．膨大な情報を含む記録映画について，さらなる知見や制作側が意図していない情報を明らかにするために，継続的な調査が必要である．

最後に，本論では言及しなかったアイヌが映し出されているショットについて，今後の課題を示す．記録映画の「聖炎旗リレー」のシーンでは，「白老では沿道にアイヌも出迎えて一行を歓迎しました」とナレーションがあり，アイヌの人々が聖炎旗リレーを見送るショットがある．アイヌの人々を映し出す編集をすることで，聖炎旗リレーをアイヌの人々も出迎えているという表現をしていると捉えることができよう．このシーンに映し出されているアイヌは，宮本イマシカトクである．また，宮本イマシカトクを含む８人のアイヌの人々は，天皇に手製の木彫り熊とアイヌ模様の刺繍物を送ろうとしていたが，天皇は見るだけで受け取らなかったというエピソードがある（北海タイムス社，1954，pp.6-7）．このことを踏まえると，このシーンは，アイヌ民族との共生を映し出そうとする第９回国体北海道組織委員会の意図があった可能性があるといえよう．この点については，文献資料等で研究を進めていく必要がある．

注

注１）坂本（1982）は，「コートシップ」を「神秘性の介在する社会的な隔たりを乗りこえるための働きかけを前提とした，タテ関係の相互の表現行動及び行動儀礼」と定義している．

注２）国際的な研究視点からみると，視覚イメージを歴史的証拠の資料として用いているピーター・バーグ（2007）は，「歴史家たちは証拠としての視覚イメージの重要性をまだ真面目に取り上げていない」と指摘している．また，視覚イメージを資料として扱うことは，テキストを資料として扱うのと同じく，ある解釈を正解とし，他の解釈を誤りとする正当な理由を見つけることがきわめて困難である一方で，視覚イメージがもたらす証拠は，文献資料を補足し裏付けるという点では価値が高いと言及している．さらに，視覚イメージを証拠として用いる利点に，読者と筆者が一緒になって検討できるという点が挙げられ，長い時間をかけて映像を読み解く必要があると示している．

注３）崎田（2020）は，栗山ほかの研究（2013）を参考に映像の単位を定義していたが，用語として正誤が不明であったため，井上（2007），益子・内田（2013）に基づき，改めて映像の単位を定義した．

注４）樋口（2014，2017）は計量テキスト分析を「計量的分析手法を用いてテキスト型データを整理または分析し，内容分析（content analysis）を行う方法」と定義し，社会学ないし社会調査の分野においてだけでなく，言語研究の分野においてもKH Coderの活用が可能なことを明らかにしている．また，「KH Coder」を用いて記録映画の言語音声分析を行った研究に崎田（2020）の研究が挙げられる．

注５）第９回国体の記録映画は，第10回国体準備委員会により第６回の記録映画とともに第10回国体啓蒙宣伝映画会活動に際して，夏季大会及び秋季大会の会場を含む神奈川県全体で巡回上映されている（第10回国民体育大会神奈川県委員会事務局編，1956，p.140）．また，第９回国体の記録映画は，北海道立公文書館に所蔵されており，VHSの状態で保存されていた．筆者は，VHSをデジタル化し，MP4ファイルで閲覧できるようにした．飯塚・脇田（2018）が使用したNHKに所蔵されている「聖炎旗のもとに（第９回国体）」とは異なる映画だと考えられる．

注６）記録映画の製作経緯等について，北海道スポーツ協会や日本スポーツ協会資料室に所蔵されている資料では確認することができなかった．

注７）筆者が確認し得た記録映画の映像時間は31分59秒３フレームである．

注８）カメラを水平方向にふりながら連続的な画を撮影する方法である（益子・内田，2013）．

注９）通常，その後のアクションの場所を見せるために使われる屋外でのロングショットのことを指すが，その場所を印象的または特徴的に見せるために使われる（グスタボ･メルカード，2013，p.77）．

文　献

第10回国民体育大会神奈川県委員会事務局編（1956）第10回国民体育大会報告書.

第九回国民体育大会北海道組織委員会編（1955）第九回国民体育大会報告書.

二上貞夫・秋山昌子・高明勝利・西村卓二・原田儀子・木村治男（1989）戦後の我国におけるスポーツの変遷に関する一考察―国民体育大会を中心として（その１）―．富士論叢，34（2）：11-24.

二上貞夫・秋山昌子・高明勝利・西村卓二・原田儀子・木村治男（1991）戦後の我国におけるスポーツの変遷に関する一考察―国民体育大会を中心として（その２）―．富士論叢，36（2）：269-323.

グスタボ・メルカード（2013）Filmmaker's Eye -映画のシーンに学ぶ構図と撮影術：原則とその破り方，ボーンデジタル.

原田宗彦（1996a）わが国の“巨大スポーツイベント・国体”の検証（前編）．月刊体育施設，（5）：86-88.

原田宗彦（1996b）わが国の“巨大スポーツイベント・国体”の検証（後編）．月刊体育施設，（6）：94-96.

樋口耕一（2017）言語研究の分野におけるKH Coder活用の可能性．計量国語学，31（1）：36-45.

樋口耕一（2014）社会調査のための計量テキスト分析―内容の分析の継承と発展を目指して―．ナカニシヤ出版.

北海タイムス社（1954）天皇と北海道.

井上秀明（2007）図解だからわかりやすい映像編集の教科書．玄公社.

入江克己（1991）昭和スポーツ史論．不昧堂出版.

飯塚恵理人・脇田泰子（2018）テレビ草創期の番組から見た日本らしさの象徴と文化の表現に関する研究．椙山女学園大学文化情報学部紀要，18：19-32.

観行智信（2002a）戦後ナショナリズムにおける愛知国体の役割―『中部日本新聞』の言説とイデオロギー操作―．立命館産業社会論集，38（2）：63-85.

観行智信（2002b）戦後復興・国民国家の再建と国民体育大会―1950年の愛知国体に関して―．立命館産業社会論集，37（4）：173-194.

栗山香耶・須藤智・樫村雅章・恩田憲一（2013）ショットに着目した映像分析支援ツール．情報処理学会，第75回全国大会講演論文集，（1）：613-614.

権学俊（2006）国民体育大会の研究―ナショナリズムとスポーツ・イベント．青木書店.

小林繋（1977）国民体育大会史考―前段―．四天王寺女子大学紀要，（10）：49-61.

小林繋（1978）国民体育大会史考―後段―．四天王寺女子大学紀要，（11）：80-100.

草深直臣（1979）戦後日本体育政策史序説―その2.戦後体育の「民主化」過程―．立命館大学人文科学研究所紀要，（29）：1-77.

草深直臣（1985）現代日本の社会体育行政の展開と課題．立命館大学人文科学研究所紀要，（39）：3-66.

草深直臣（1987）「京都国体」の現状と展望．日本の科学者，22（1）：20-26.

益子広司・内田一夫（2013）映像カメラマンのための構図完全マスター．玄公社.

桝本直文（2000）スポーツ映像のエピステーメー：文化解釈学の視点から．新評論.

ピーター・バーク：諸川春樹訳（2007）時代の目撃者．中央公論美術出版.

外間政太郎（1983）国民体育大会に関する歴史的研究．琉球大学教育学部紀要，2（26）：141-152.

関春南（1997）戦後日本のスポーツ政策―その構造と展開．大修館書店.

坂本孝治郎（1982）戦後地方巡幸と国民体育大会―北海道新聞にみる一九五四年のコートシップ･ドラマ―．学習院大学法学部研究年報，（17）：21-188.

崎田嘉寛（2008）第６回国民体育大会（広島県，1951年）に関する一考察―記録映画『平和の鐘』を中心として―．広島体育学研究，34：26-33.

崎田嘉寛（2015）東京パラリンピック大会（1964）に関するテレビ放送―NHKでテレビ放送された映像に着目して―．スポーツ史研究，28：71-83.

崎田嘉寛（2020）東京パラリンピック大会（1964年）の記録映画に関する一考察―「パラリンピック東京大会」と「愛と栄光の祭典」の内容分析―．スポーツ史研究，33：73-85.

崎田嘉寛・近藤雄大（2022）第10回オリンピック競技大会における南部忠平による三段跳の動きに関する事例研究：動的映像資料の動作分析を手掛りとして．北海道体育学研究，57：31-38.

内海和雄（1993）戦後日本のスポーツ体制の確立．不昧堂出版.

読売新聞（1955a）４月６日.

読売新聞（1955b）５月11日.

読売新聞（1955c）６月３日.

（令和５年３月30日　受付
令和５年７月27日　受理）